

頑張る生きもの

1. セスジスズメの幼虫

戦闘機の流線型はスズメガをモデルにしたのでしょうか。セスジスズメはガの一種ですが、その飛翔を見ることはまずありません。夜行性だからです。一般的には朝になって外灯に飛来したものに気づく程度です。

一方、幼虫は非常に目につく存在で、黒色の体側面に赤黄色の7個の円紋が並び、とても不気味です。そのうえ、尾端に長い突起(尾角といい、スズメガに共通)があります。ちょっと手に取る気はしないのですが、刺すことはなく、無毒ですから捕まえても大丈夫です。同様の色彩で有毒のものがいれば、身を守るためにスズメガの幼虫が姿を真似たと考えられますが、似た姿の生き物がいません。目立つ目玉模様で鳥を脅しているのではないのでしょうか。

終齢幼虫になると茶褐色となり、背中に黄色の横縞が入りますが、脇腹の目玉模様はそのままです。頭胸部の方が細いため、尾角のある方が頭のように見えます。この怪物がよく見られる草が、打吹山遊歩道や公園近辺のヤブガラシです。



セスジスズメ



セスジスズメの幼虫

2. ヤブガラシの蜜

ブドウの仲間ですが、果実の房がぶら下がらないのでブドウらしくありません。日当りの良い場所を好み、林縁や植え込みなど



ヤブガラシの花と果実



ヤブガラシの花

でよく繁ります。多年生なので、地下の茎からの芽出しは4月下旬から始まり、取っても取ってもまた伸びてきます。茎から巻きひげを伸ばし、他の草木に取り付きながら上へ伸びるつる植物で、草木の上面を覆って光をさえぎってしまうため、藪も枯らすという意味から「ヤブガラシ」と呼ばれています。

6月、花は房状に広がって咲きます。茎の先端が花になって側芽が伸び、その先端が花になる、というように次々と枝分かかれながら花が作られます。同心円状に広がった花穂は最初の開花と後の開花がずれるため、果実と花が同時にみられます。

小さな花卉とおしべはすぐ落ちるので、めしべは花托(花盤という)の上に突き出た形をしています。時間とともにオレンジ色からピンクに変わる花盤は蜜が多いので、昆虫がよく集まります。受粉に役立っているのでしょう。



ヤブガラシのつる先